

座談会

Round-Table Talk

CN20周年記念特別座談会

Next We Serve ～明日へのバトン～

出席者／L岡田 寿雄 在籍37年・名誉理事（CM）
L千田 鋪光 在籍27年・会員理事（CM）
L野邊 孝 在籍25年・名誉理事（CM）
L大橋 庄洋 在籍21年・名誉理事（CM）
L内海 亘 在籍20年・
CN20周年大会委員長（CM）
L廣田 博 在籍20年・名誉理事（CM）
L小松 健一 在籍20年・第一副会長（CM）
L廣田 春生 在籍19年・会長
L奥村 文章 在籍11年・幹事
L清原 淳司 在籍 3年・財務委員長
司 会／L大鹿 功雄 在籍20年・前会長

「新成人」として責任を持った クラブ運営…原点を大切に

司会 年の瀬のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

今日は、名古屋中川ライオンズクラブ（以下中川LC）CN20周年を記念して、今後のさらなる発展と活性化に向けて、今日までの歩みを振り返り、いろいろな世代の会員の皆様に率直なご意見・ご提言をいただいて、将来への良き指針に致したいと存じます。つたない進行をお許しの上、どうか積極的なご発言をお願い致します。

まずは中川LCを代表して、会長L廣田春生よりご発言いただきます。

L廣田(春) めでたく創立20周年。人間で言えば「新成人」ですね。名実共に一人前として責任を持って役目を果たして行かなければならない、そういう記念すべき節目だと思います。しかしながら人間は一人で大きくなった訳ではなく、周囲の深い愛情に見守られ支えられて成長してきたのですから、まずその事への感謝がなければなりません。美しく咲く花



L大鹿功雄



の前には、土や肥料をこね、丹精込めて水をやった先人の目に見えない苦勞がある訳です。常にそうした原点に想いを寄せつつ、未来志向で着実に歩んで行きたいと思います。

司会 ありがとうございます。「原点を大切に」という想いのこもったお話でした。では、その原点を身を以て見つめてこられたチャーターメンバーの皆様、結成当時を振り返り、当時のエピソードなど順にお話しいただきたいと思います。

L岡田 親クラブの名古屋みなどLC在籍当時、キャビネットからエクステンションの強い要請をいただき「中川LC設立準備委員会」を立ち上げた訳です。したがって発足前からクラブ名が決まっていた（笑）。事前に「みなどLCを二つに割らない」という厳しい条件を付けられていましたが、凶らずも結果的に真っ二つに割ってしまうこととなった苦い思い出があります。当初は資金繰りに大変苦勞致しました。こうした経緯の末、昭和62年6月25日。会員86名でCNを行いました。以来、15年目にして名古屋クオリティLCをエクステンションして今日に至っておりますが、当時を顧みますとまさに感慨無量です。

L千田 入会に際して大先輩に親しくご指導いただき、L Cの理念の素晴らしさを実感したことをまるで昨日のここのように思い出します。「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」という格言がありますが、まさにその通りで、人生の歩みを功績として残したい訳ですね。個人ではなかなか出来ないことも、団結・協力してアクティビティという形で奉仕活動が出来るということに、かけがえのないL Cの魅力を感じています。

L野邊 初代会長L岡田寿雄のお話にありましたように、設立当初は何しろ資金不足。やむなく家族例会等の親睦行事は二の次にして、とにかくアクティビティに資金を回し、それでも足りないので、東奔西走して会員の皆様にずいぶんご無理を申しました。当時は情熱に溢れ士気も高く、精力的に協力いただいたおかげで今日の礎を築くことが出来ました。

L小松 厳しい資金繰りというお話に、つい私の会社を思い浮かべてしまいました(笑)。入会当時は役員・理事は「雲の上の人」で、並外れた見識を持った人格者でなければなれないものと思っておりました。けっして「今は違う」と言っている訳ではありませんが(笑)。

月日が経ち、リーダーシップを取るべき立場になりましたが、先輩方のご苦勞に恥じぬよう自己研鑽に努めたいと、改めて痛感しました。



L岡田寿雄

司会 ありがとうございました。まさに「中川L C誕生秘話」の貴重な裏話までうかがいました。こうしたご苦勞の末に今日の中川L Cが成り立っているのですね。

さて、全世界200カ国、45,000クラブ余、130万人以上の会員が信奉するライオンズムの理念とは、豊かな愛国心や公德心を持った国際人の養成にあると言えるのではないのでしょうか。身近な足元にも目を向けて「求められるライオン像」について話し合ってみたいと思います。

ライオンズ仲間は人生の宝 …あくなき成長の同志たれ

L千田 L Cの活動は経済的な状況に大きく左右されます。日本経済が好況であればL Cも活発ですが、長引く経済の沈滞もあって、中川L Cの会員は半減しています。しかしながらこうした逆風はL C会員個々の資質を高め、絆を強める絶好の機会でもあります。情報交換に努め人間関係を深めることで、より人間性豊かなライオンが育つのではないのでしょうか。



L千田 鋪光

L小松

「L Cは授業料を払わない学校である」と言われます。たしかにその通りで、先輩Lの中に自分自身の10年後・20年後の姿を見る訳ですね。創立者メルビン・ジョーンズが「L Cは人を変える」と語っておられるように、自分自身を「常に発展途上にある」と信じて切磋琢磨して行きたいですね。

L廣田(春) 昨今は、日本人の国際的な活躍や皇室の御慶事等で、若い人でも「日本」を意識することが多くなっています。また教育基本法改正等、国全体の流れも変化してきています。これからは「私」だけでなく、新しい「公」への意識・取組みが求められると思います。

L Cにおいては「例会出席が奉仕の第一歩」ということで、自発的に参加し情熱を持って取組むことから始まると思います。そうした中からL Cの良さも、また新しい楽しみも生まれるのではないのでしょうか。

L野邊 私は常々「L Cの友達に人生の宝」と申し上げております。実際、この世知辛い世の中で信頼に足る友達を得、同じ目的の下に楽しい時間を過ごすというのは最高の幸せです。それを声を大にして訴え、新しい仲間を増やして行きたい。そのためにまず「自分自身が楽しめるライオン」でありたい(笑)。

L岡田

永遠のテーマである「ライオンの質的向上」。しかしながら、入会に際してハードルを上げれば会員増強に逆行してしまい、ハードルを下げればモラルの低い会員を招いてしまうジレンマがあります。また「会

員数を減らしてもクラブ数を増やす」という方針も質的低下の一因。以前は新クラブ誕生は5～6年に一度で、こぞってお祝いしたものです。「はて、このクラブはいつ出来たんだろう？」というような、近年のクラブの粗製乱造には苦言を呈したい。

L内海 望まれる「クラブ像」と「ライオン像」の二つをきちんと分けて考える必要があると感じました。クラブ像という点では、活動の拡大のために増員が避けて通れない訳で、倍増に近い目標を掲げて邁進している、市内の他クラブがあることをご紹介します。ライオン像という点では「彼こそライオンと呼ばれる人々」と言うべき人格・見識を持った、まさにお手本とすべき方が中川LCにも何人もお見えになると思っております。

司会 年代によってとらえ方も違うのでしょうか。お若い方のご意見はいかがでしょうか。

L清原 入会3年目でまだまだ勉強中ですが、先日、創立者メルビン・ジョーンズの書物でライオンの由来について知りました。彼はやはり動物のライオンをイメージしておられたようで、勇猛で情け深く、智恵と力と品格の象徴としてライオンを思い描いた訳ですね。日頃の活動を通じて成長させていただき、少しでもその域に近づきたいと念願しています。

L奥村 入会当時は年長の方ばかりで、自分自身が浮き上がっているように感じられ、退会を考えたことも正直ありました。けれども、その都度親身に相談に乗っていただき、温かい声を掛けていただいて奮起したことを思い出します。今は「やめなくて良かった」と(笑)。

大切なのはやはり「万障繰り合わせて参加する」ということですね。休み癖が付くとどうしても疎遠になってしまいます。上手な自己管理のためにも、日常生活の中に積極的にライオンズタイムを作りたいと考えております。



入ってみて初めて良さがわかる …それがライオンズクラブの魅力

司会 活発なご意見ありがとうございます。皆さん経営者でいらっしゃるの、その意味では「組織運営のプロ」。日頃から、一人一人の人的成長が組織を伸すことを実感されてのお話だったと思います。では、その点をもう少し掘り下げて、今度は「ライオンズ活動を通して得たもの」。交友関係や心の成長、またご家庭や趣味のことでも結構ですので自由にご発言いただきたいと思います。最初に、クラブ歴のもっとも長いL岡田寿雄に口火を切っていただきます。

L岡田 「LC活動を通じて豊かな趣味を持つことが出来た」というのが実感です。以前は男性の趣味というとゴルフ一辺倒の感がありましたが、ゴルフの他に研修、経営、囲碁、美術と、多種多様な5つの趣味部会を設けて積極的に活動していることは喜ばしい限りです。趣味を通じて意識を啓蒙し、本来の活動の出席率を上げるという効果も期待できると思います。

L内海 趣味ということでは、現役の在籍者だけでなくOBや他クラブの方にも積極的に声を掛け、活動を広げて行くことも必要ではないでしょうか。これからの長寿社会、健康で心豊かに暮らすためにも、趣味を通じた交流はととても価値のあることです。

L大橋 「LCで得たものはLCで返せ」とよく言われましたが、それは「自らの成長を伝え分かち合う」という意味に理解しております。まずはこれを実践したい。それから家族に関してですが、まだまだLC



活動への理解度が不足しております。家族例会等を通じて、一番身近なところから啓蒙を深めたいと思います。

Ｌ廣田(博) LCで学んだ経験が地域の会合などでも活かされ「自分自身の成長」という点で本当に感謝しています。先輩から「賞賛は多めに、批判は控えめに」と言われましたが、今までの自分はまったく逆の自己中心的な生き方をしてきた訳ですね。人の輪の中でそうした気づきもありました。「入ってみて初めて良さが判る」というのもLCではないでしょうか。

身の丈にあった個性豊かな 例会&アクティビティを

司会 ありがとうございます。さて、結成当時と現在の何よりの違いは「社会の情勢」だと思います。バブル絶頂期に結成以後は、日本経済は衰退の一途をたどり、LC活動もあらゆる面で余裕を失っている現状です。こうした厳しい状況の中で、より充実した運営&アクティビティを続けて行くには、知恵の結集以外にありません。どうか思い思いに活性化への直言をお願い致します。理事会や委員会ではなかなかお話になれないような辛口のご指摘・お叱りでもけっこうです。

まずはテーマを絞って「例会のあり方」についてご意見をどうぞ。

Ｌ大橋 執行部の目標・方針に沿って各委員会が細部までプランを練り上げ、それを組織的にきちんと運用して行く必要がありますね。ですから特に委員長・副委員長には、一年の任期中それに没頭していただきたい。「何かあれば三役に」というのでは、なかなか実務能力も育たないので、そういった士気を高める指導と工夫が必要です。



野邊 孝

Ｌ内海 例会においては、理事会だけでなく委員会報告を充実させ「何が行われているか」を隔々まで浸透する必要があると思います。また欠席者や不在会員について、ますます疎遠になり不在から退会へとならないためにも、例会の様子等をきちんと報告することが大切です。東急ホテルの例会場は、大変良いと思います。「形は内容を伴う」と言われますが、ハイレベルな空間に集うことで、自ずと威儀を正し精神的にも充実しますから。

Ｌ廣田(博) 「例会に参加を促す」という意味で、スポンサーの役割も重要だと考えます。私の場合は仕事帰りに呼び出して、一杯やりながら親しく例会に誘うということもあります。あまり度重なると女房に角を出されてしまいますが（笑）。



大橋庄洋



内海 巨

司会 では次に「今後望まれるアクティビティのあり方」についてご意見下さい。

Ｌ大橋 「一部の人だけで決めたのでは」と思われるアクティビティを散見しますが、それでは参加意欲が失われてしまいます。他クラブを意識するのではなく、地味でも良いから全員参加の下で、中川LCの独自性を活かしたアクティビティを期待したいと思います。

Ｌ廣田(博) まったく同感です。恒例の予算化された中で「担当者が一人で頭を悩ませる」というのでは全員参加になりません。自由に意見が言える風通

しの良いムードを作り、多くの知恵を結集するアクティビティに育ててこそ価値があります。

Ｌ内海 グローバルな視野に立って、親子・孫3クラブ合同あるいは334-A地区合同による、よりスケールの大きなアクティビティを検討すべき時期ではないでしょうか。



Ｌ廣田 博

司会 活性化と運動の広がり、また財政面の強化のためにも「会員の増強」は避けて通れない課題ですね。この点についてＬ大橋庄洋のご意見はいかがですか？

Ｌ大橋 会員増強の基礎になるのは、現会員個々の人間的魅力に尽きますね。伝統を守りつつ、時代にマッチした柔軟性を発揮して「あの人のいる所なら共に頑張りたい！」そう思っていただけのような地道な努力が大切です。もちろん頭数を揃えれば良いのではなく、新入社員を有能な社員に養成して行くのと同じで、先輩・同志としてしっかり見守り育てて行かなければなりません。また家庭においても同様です。父親の背中を見て、将来「親子会員」として花開くこともあるでしょうから。

司会 ありがとうございました。例会、アクティビティ、会員増強と、LC活動の基本線についてご意見が出揃ったところで、CN20周年記念大会委員長Ｌ内海亘に方向付けのまとめをお願い致します。

Ｌ内海 一人でも多くの方に声を掛けさせていただき、「意欲の高い行動していただける会員」の獲得に努力致しましょう。

資質向上の点では、新会員セミナーでの指導をさらに強化することを提言します。またアクティビティにおいては、自由な発想で知恵を集め工夫を重ね「真に役立ち喜ばれる奉仕活動」でありたい。「一方的に差し上げるだけ」で満足するのではなく、どう活用されているかを実地に調べ、常にフィードバックする必要があると考えます。

ともあれ、CN20周年記念大会は全員参加で必ず成功させましょう！

一丸となってスタートダッシュを！ …25周年に向けて

司会 示唆に富んだ率直なご提言ありがとうございました。お話の中にあつた「伝統を守りつつ時代に合った柔軟性を持つ」というのは、まさに我々の変わらぬ基本姿勢ですね。

ところで、さらなる飛躍のためには、中川LCの未来を担う若い方の頑張りあればこそ。明日を託す熱い想いを込め、Ｌ千田舗光より若手のお二人にエールを賜りたいと思います。

Ｌ千田 世界に目を向ければ、まだまだLCの助けを必要とする悲惨な現状があります。若い世代の方々には、地域社会だけでなく、国境を越えたアクティビティにも尽力していただきたい。私たちは長年、台北七星LCという国交のない国のLCとも親交を深めてきましたが、こうした交流の歴史も国際的な視野を広げる糧として活用していただき、どうか若い感性とエネルギッシュな行動力で活躍されるよう期待しております。頑張ってください！



Ｌ小松健一



Ｌ廣田春生

司会 それではL奥村文章、L清原淳司より一言ずつ誓いのメッセージをお願い致します。

L奥村 歴史あるLCの一員として活動させていただけれることを本当に有難く思っています。社会もめまぐるしく変わり、若い世代がますます必要となつてまいりますので、私も友人に積極的に声を掛け仲間を募って行きたいと思ひます。末永いご指導をお願い致します。



L奥村文章



L清原淳司

L清原 「地域社会のみならず国際的な奉仕活動」というお言葉でしたが、本当にそうした意識を持ち、幅広い視野と行動力のある会員になれたらと願っています。LCという「卒業のない学校」に入学させていただいた訳ですから、精一杯勉学に励んでまいります。

司会 はからずも「想いを託す」という感動的なシーンになりました。短い時間でしたが、皆様のLC活動への愛着と情熱のこもったお話をうかがい、とても誇らしい気持ちです。

次期会長としてリーダーシップを発揮していただくL小松健一に、本日の総括を兼ね、明日への力強い抱負をうかがってお開きと致します。

L小松 大先輩からの貴重なご教訓の数々、また皆様方からの意欲的なご提言をいただきました。今後の大きな指針として活かしてまいりたいと思ひます。身の丈に合ったアクティビティや会員の資質向上を念頭に置いて、会員の増強に尽力致します。

来期は25周年に向けたスタートの年でもあります。着実に足元を固めつつ、長期的な展望を持って邁進して行く覚悟でございますので、ご指導ご支援をお願い申し上げます。

司会 本日はまことにありがとうございました。

